

## 平成26年度 大阪市社会教育委員会議 第1回小委員会 議事録

1. 日 時 平成26年7月23日(水) 午後1時30分から3時30分
2. 場 所 大阪市役所 地下1階第7共通会議室
3. 出席者  
(委員)  
岡田委員・笹川委員・西端委員・宮田委員・森下委員  
(事務局)  
森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、藏田社会教育施設担当課長、松村生涯学習担当課長代理 唐澤人権生涯学習主管課長会代表
4. 議事概要
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 出席委員・出席関係職員紹介
  - (4) 議案
    - ・ 小委員会の役員について
    - ・ 社会教育委員会議への諮問について
  - (5) 報告
    - ・ 意見具申の作成スケジュール(案)について
    - ・ 意見具申のたたき台について
    - ・ 生涯学習施策の進捗状況について
    - ・ その他
5. 主な意見等について  
(意見具申について)
  - ・ 地域における生涯学習の状況として、学んだ成果を地域に還元していくという流れができつつある。その一方で課題も出てきている。区によって、状況がそれぞれに違っている。
  - ・ 地域活動協議会が設置されたことで、地域における生涯学習ルーム事業(以下ルーム事業)、小学校区教育協議会—はぐくみネット事業—(以下はぐくみネット事業)のスタンスも変わってきている。これまでの流れの中で培ってきたいい部分については、しっかりと残していってもらいたい。
  - ・ 生涯学習推進員など地域で活動するボランティアが誇りを持って力を発揮できる環境整備が必要。
  - ・ 地域のコミュニティがだんだんと希薄になってきている。はぐくみネット事業の枠を使って、地域で子どもを見守る活動を継続して続けていく必要がある。
  - ・ 地域活動協議会については、中間見直しの時にも議論があったが、地域(区)によ

っても、ずいぶんと違いが出てきている。個人の学習を地域に還元していくということへの理解は深まってきており、大阪市の生涯学習は進んできているといえる。その一方で、コミュニティビジネスの動きのように、地域に還元するにしても、その活動に対してペイされないと、続かないという意見もある。

- ・生涯学習推進員は、事前に研修を受けてから推進員になるということと、無償のボランティアであることが特徴。推進員としてボランティア活動を続けていくためには、継続した研修を受けて力量をつけていくことが大切。
- ・これまで、生涯学習推進員や、はぐくみネットコーディネーターなど、地域で活動するリーダーが養成されてきた。地域活動協議会などの動きが出てくる中で、これまで教育の枠組みで活動してきた事業の境目もどんどんなくなってきている。一方で、生涯学習推進員や、はぐくみネットコーディネーターの地域での認知度はまだまだ低い。ここで、生涯学習推進員や、はぐくみネットコーディネーターの役割や機能を整理して、こんな活動をしているということを明確化していく必要がある。地域のためになる活動をしていける枠をしっかりと整備していく必要がある。
- ・これまで積み上げてきた実績も大事だが、時代とともに、組織のあり方、事業の方法、内容、かかわる人もかわってこざるをえない。事業についても、区が中心になってやるのか、市が統一でやるのかによってもかわってくる。
- ・市の策定する計画の中で、根本となる理念の部分の固め、その理念に向かう方法については、区によって特徴を出してもらおう。今回はその核となるような計画をつくっていけるような意見具申をいただきたい。
- ・統計上の数字だけではなく、それぞれの事業の結果の精査をした上で、これまでの成果や、今後の方向性については、考えていく必要がある。区役所と地域で活動する諸団体の関係についても、区によってばらつきがある。事業（活動）についての周知が十分にできていないという課題がある。
- ・大阪市の生涯学習は、「教育コミュニティづくり」をひとつの柱としてきた。文部科学省の事業も、大阪市を後追いする形でその理念を取り入れてきた。教育の中で活動してきた団体や事業も、教育を超えて地域の自立にかかわらざるをえない状況になってきた。小学校を拠点に活動してきた大阪市の生涯学習も、これからは学校だけでなく、広い視野を持って活動していく必要があるのではないかと。広い地域で活動できる人たちを生涯学習ではこれまで育ててきていると思われる。
- ・情報化については、今後の計画の策定についてデータが必要。
- ・今、大学も地域貢献をしたがっている。小学校、中学校だけでなく、他の教育機関ももっと利用していける。市内在住の人だけでなく、在勤の人も、活動可能な人材として、視野を広げていけばいいのではないかと。大学生は、地域とかかわる機会が少ないので、地域と大学が連携することで学生にとっても地域にとってもメリットがある。

- ・情報化の流れの中で、例えばスマートフォン上で、チャットのできるソフトウェアが子どもたちの間ではやっていたり、ネット上でのいじめが起こっていたりしているが、先生がどのようにそのソフトを使うのかがわからないという状況が発生している。現役のユーザーが先生に教えるということもできる。地域の学生をもっと活用してほしい。
- ・市で、全体の骨組みを作って区に引き継いでいく。生涯学習で何を進めていくのかをきちんと押さえていく必要がある。学んだことを地域に還元していく、その還元する活動もひとつの学びであるにとらえると生涯学習の範囲は幅広い。一般行政でも、市民の理解、協力なくしてはうまくいかない。地域との協働については、生涯学習がこれまでのノウハウを持っている。その活動の中心になる人を今まで育ててきたし、これからも育てていく必要がある。生涯学習は人育てだともいえる。それを広い意味で「教育」ととらえてもいいのではないか。

市民が自らの手で教育を作っていけるような仕組みを作っていくことがこれからの生涯学習の中で必要であると思う。最終的に地域、市民の自立にもっていくことを生涯学習ではきちんと射程にいれているのだということをもっとアピールしていく必要がある。

地域の子どものをどのように育てていくのか、地域課題の解決、人づくりのテーマは生涯学習の範囲にはいつてくる。中身よりも、活動していくことそのものが、生涯学習であるにとらえると、生涯学習の範囲はかなり広いといえる。生涯学習にかかわっている人の理解も必要だし、活動を維持していく努力も必要。これまで、しっかりと人育てはしてきたので、その人たちにこれからどのような活動をしてほしいのか、何をしてほしいのかを明確に示していく必要がある。